

2007年度 研究の国際化推進プログラム「多様な国際連携スタートアップ」種目 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 経済学部・教授 氏名： 松野 周治
研究テーマ	東北アジアにおける多角的「互惠」関係構築の研究

I. 国際連携先の概要	
提案機関 ・プロジェクト名	(機関名) 東北アジア地域研究センター (プロジェクト名) 東北アジアにおける多角的「互惠」関係構築の研究
共同研究機関	(名称) 東北財経大学経済社会発展研究院 (代表者) 呂 焯
II. 研究計画の概要	
今回の国際連携スタートアップの目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。	
中国東北並びに大連地域を代表する大学のひとつであり、立命館大学が長期に亘り、さまざまな交流と協力を重ねてきた東北財経大学等との間で、現在日中両国並びに東北アジア地域で具体化が求められている多角的「互惠」関係構築について共同研究を開始する。研究の中心は、2004年に始まった中国の新たな地域発展戦略である東北振興計画の下で、中国東北経済がどのように変化し、日本、韓国、朝鮮、ロシア等との間でどのような新たな地域内国際協力が再開する可能性が生まれているのかを明らかにすることに置かれる。こうした研究を開始するため、東北財経大学の研究活動の中心である経済社会発展研究院との間で研究協力で合意するとともに、合意に基く共同シンポジウムを開催することが本プロジェクトの目的である。	
III. 研究成果の概要	
今回の国際連携スタートアップで得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。	
<ol style="list-style-type: none"> 事前研究会等を経て、立命館大学東北アジア地域研究センターから松野周治センター長をはじめ5名の教員並びに1名の博士後期課程院生が、2008年3月5日～7日、東北財経大学(中国大連市)を訪問し、同大学書記、2名の副学長(国際協力担当、研究担当)、国際センター所長等と会談した。その結果、両大学の研究活動について交流するとともに、今後の研究協力について合意し、立命館大学東北アジア地域研究センターと東北財経大学経済社会発展研究院が東北アジア地域経済協力研究を共同で推進するための協力覚書を交換した。 上記覚書の最初の具体化として、3月6日の午前、午後を用いて、日中国際シンポジウム「東北振興戦略の下での中国東北部の変化と新しい東北アジア地域の協力」が東北財経大学において開催され、両大学から各3名の報告をもとに、討論した。 同シンポジウムを通じて、遼寧省を中心に、中国東北振興計画の現段階(新たな地域発展計画の内容、設備製造機械産業の現状、全体としての東北経済の発展状況)が明らかにされ、経済発展モデルとしての日本経済や日本企業の再評価の可能性等が指摘された。 同シンポジウムでの議論を踏まえ、双方が報告を学術論文として執筆、『立命館国際地域研究』次号(2008年10月刊行予定)に発表するなど、共同研究を継続している。 	

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。